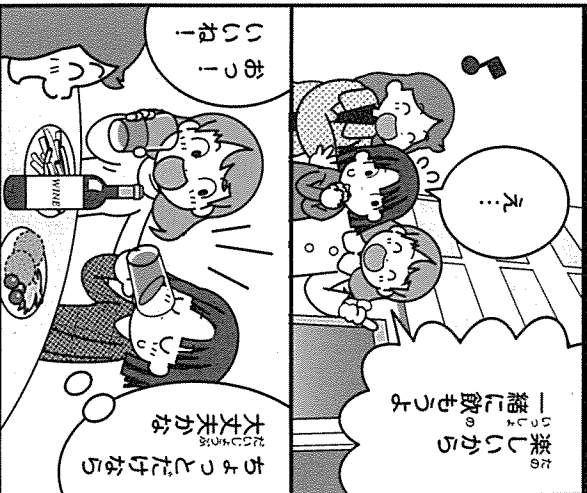


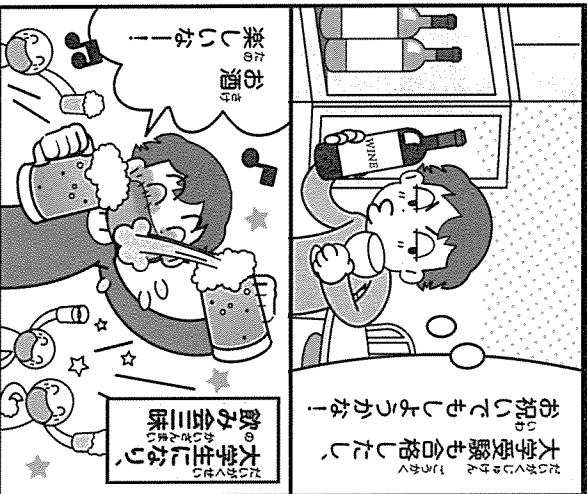
20歳未満の飲酒が禁止されている理由

長期休みは、家族・親戚や友達と集まる機会があったりも多いのではないだろうか。もし、そのような場で「ちよっとくらい大丈夫だよ。」とお酒を勧められても、絶対に飲んではいけません。20歳未満の飲酒が法律で禁止されているのには、理由があります。

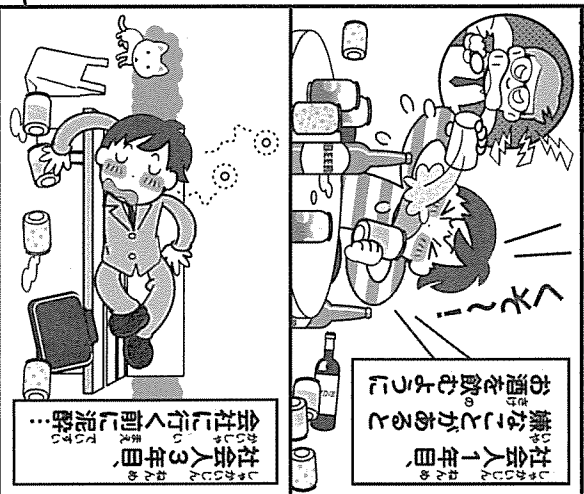
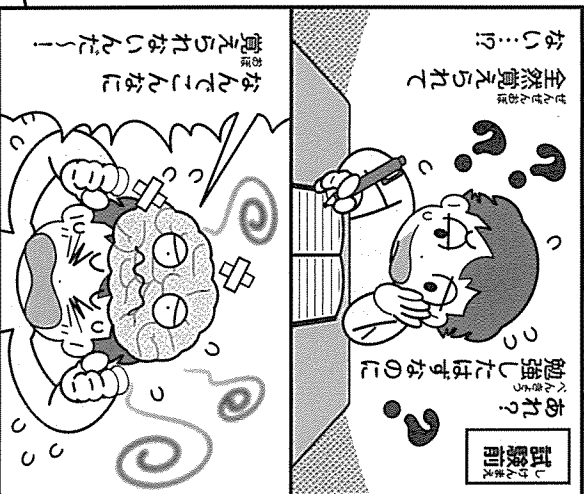
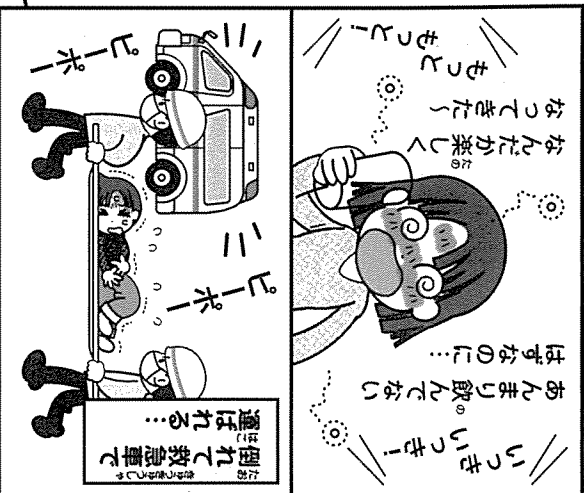
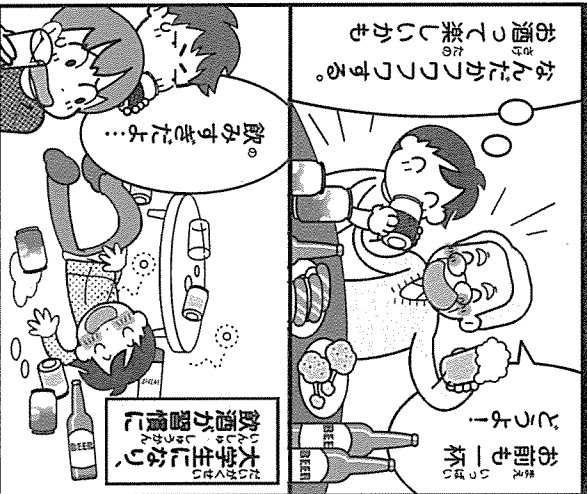
急性アルコール中毒になりやすいから



記憶力が悪くなるなど脳の機能が低下するから



将来アルコール依存症になりやすいから



10代の体は発達途中で、お酒（アルコール）を分解する力が弱く、少量の飲酒でも危険です。ましてや「いっき飲み」のような飲み方をすると分解が追いつかず、大量のアルコールが体中を巡り、心臓や呼吸機能などに異常が起こり、最悪の場合は死に至ることもあります。

アルコールは脳を麻痺させ、高揚感などをもたらす反面、思考力や記憶力を低下させます。一時的なものと思われがちですが、若いうちから過度に飲酒する習慣がある人の脳では、記憶を司る海馬が縮み、生涯に渡って記憶力が低下したケースもあります。

10代の飲酒とアルコール依存症には深い関わりがあります。15歳から飲酒を始めた人の約50%がアルコール依存症になるといわれており、また飲酒開始年齢が低いほど、数か月・数年といった短期間で急速にアルコール依存症を発症する恐れがあります。

飲酒 NO!

- [体にも脳にも悪いから、やめておく!]
- [20歳未満にお酒を勧めた人が罰せられるんだよ!]
- [お酒がなくても楽しめるから大丈夫!]

...など、キツパリと意思表示をして断りましょう。



※参考：キリンホールディングス株式会社。「20歳未満とお酒」(https://www.kirinholdings.com/jp/impactv/alcohol/0_1/risk/difference/underage/)